

保育構想案

奈良教育大学附属幼稚園 鎌田大雅

1.活動名

アサガオの種取り (4歳児9月)

2.子どもの姿と読み取り

- 1学期間を通して、クラスの大半の子どもが園生活の中で自分にできることがわかり、個人差はあるがそれぞれが自分のペースで意欲的にできることに取り組んでいる。また、日々決まっていこうことにも見通しが持てるようになり、自ら進んで登降園の準備などを行っている。ただ、自分にできることは積極的にしようとするようになってきているが、手洗いや着替え、水分補給等についてはしなければいけないものとして、行っている側面も見られる。
- 好きな遊びの中では、階段みたいにしてビー玉を転がすために、積み木を階段上に並べたり、プリキュアの変身するものの形や色にこだわって作ったりなど、目的や思いが子どもたちそれぞれから表出されるようになってきた。目的や思いに向かって、自分なりに試してみたり、繰り返したりしている。
- 好きな遊びが同じだったり、同じ場でよく遊んだりする2、3人の友達関係が安定してきている。その2、3人の友達との遊びの中で、簡単な目的や思いが保育者がいない場面でも「ねえ見て見て」「こうしてみようよ」など、友達との間で自分がやって見たいことや、やろうとしていることを伝えようとする姿がある。それを受けて「それいいねやってみよう」「えーでも私はこうしたい」など、友達の思いに触れて、それに対して思ったことを自分なりに話すようになってきている。気の合う友達との関係性の中では、自分の思いや考えを伝えようとするようになってきている。また、その気の合う友達にも思いや考えがあることに気づき、それに対して思うことなどを自分なりに伝えようとする姿がある。
- クラスでの活動では、みんなで歌を歌うことを喜ぶようになり、声が揃うこと、歌っているその空間に一緒にいることが心地良くなってきている。七夕飾りをつくったり、プール遊びの絵を描いたりなど、作るものや描くものがわかりやすいものであると、その中でそれぞれが目的を持って楽しむようになってきている。クラスみんなでやるべきことが単純で明確な活動であれば、大半の子どもたちは理解をして、その中で自分なりに目的をもって取り組むようになってきている。
- 6月に一人一粒のアサガオの種を牛乳パックで作った植木鉢に植えて世話をしたり、成長の様子を見守ったりしてきた。毎朝の水やりを欠かさずにする子ども、日々の小さな成長をじっくり見ている子ども、双葉が出てどんどん大きくなっていくことを喜ぶ子ども、双葉と本葉、その後に出てくる葉っぱの違いに気づく子ども、気の合う友達のアサガオと自分のアサガオの葉っぱの数やツルの長さを競い合う子など、同じアサガオでも、気になることや見えていること、興味関心はそれぞれであるが、みんながアサガオに興味を持っている。夏休みに入る前に、一つ一つ牛乳パックに植えていたものをグループごとのプランターに植え替えをして支柱を立てた。そこにツルが絡んでいって伸びていくことを子どもたちに伝えて夏休みに入った。夏休みのアサガオの成長を記録した動画を配信し、子どもたちに夏休み中のアサガオの様子を伝えている。

3.目指す子どもの姿

- クラスでの活動に意欲的に参加し、自分が思ったり感じたりしていることを自分なりに表現しようとする。

4.活動の目標(ねらい)

- アサガオの花が咲いた後に種できることを知る。(知識及び技能の基礎)
- 自分なりの言葉や表情などで、思ったことや感じたことを保育者や友達に伝えようとする。(思考力・判断力・表現力等の基礎)
- クラスの友達と喜んで、アサガオの種取りをする。(学びに向かう力・人間性等)

5.評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
○アサガオの成長を写真や動画などを振り返りながら、種ができてきたことがわかる。	○種採りを通してたくさん採れたことや、友達と数を比べたりして感じたことや思ったことを自分なりに保育者や周りの友達に表現する。	○自分が育てたアサガオのツルをたどりながら、たくさん種をとる。 ○採れた種を保育者や友達に見せたり、数を数えたり、それぞれの興味関心に合わせた姿を見せる。

6.環境構成

○活動内容の設定理由

個性の強い子どもたちが多くクラスであり、友達への興味やかかわりかた、かかわる頻度には個人差がかなりある。クラスでの活動にも徐々に多くの子どもが意欲的に参加しようとし始めている。ものを介して自分のものと、友達のものを見たり、比べたりすることで、友達への興味を示すきっかけになればと考え、アサガオの栽培を子どもたちに提案し行う。

○教材について

アサガオ・・・成長のスピードも早く、葉っぱの形や花の色が違うこと、ツルが上まで伸びていく面白さがある。一粒の種からたくさん種が取れることも経験することができる。

植え方・・・「自分のアサガオ」ということがわかるように、最初は牛乳パックで作った植木鉢に植えて育てるようにする。その後、グループごとに大きな植木鉢に植え替えをし、一人ずつに支柱を立てる。

○展開の工夫

アサガオの花が10月に入っても咲いていたことや、花が咲いていなかった子どももいたため、全員が花を咲かせてから種取りに向かうことにした。

7.ESD との関連

○活動を通して養いたい ESD の視点

多様性

・種子の形や色、採れる数などが友達のアサガオと異なる。

相互性

- ・一粒の種子からたくさんの種子が採れる。
- ・採れた種子を来無植えることに期待をもつ。

○活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

多面的・総合的に考える力

・それぞれのアサガオから採れる種子の形や色、数の違いなどから、同じ「アサガオ」であっても、多様であることを感じる。

つながりを尊重する態度

・一粒の種子からたくさん種が採れたことを喜び、採れた種を来年植えたらどうなるか、植えてみたいと感じる。

○ESD で育てたい価値観

自然環境や生態系の保全の重視/ 幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

- ・アサガオを大切に育てて、成長を見守る中でアサガオに愛着をもつ。
- ・自分で育てたアサガオから種子が採れたことを喜ぶ。
- ・採れた種子を来年に植えることに期待を膨らませる。

○貢献できる SDGs

- ・15 陸の豊かさを守ろう

8.展開

予想される子どもの活動	保育者の環境構成と援助
<ul style="list-style-type: none">○アサガオが枯れていく様子を見る。○アサガオの種ができていくことに気づく。○実際の種を見たり、種の写真を撮ったものを見たりして、クラスのみんなでアサガオの種ができたことを知る。○採った種を入れる入れ物を作る。○種採りをする○採れた種を友達と比べる。(数、色、形等)	<ul style="list-style-type: none">○毎日の子どもの気づきやアサガオとのかかわりを見取り、共感したり疑問を投げかけたりする。○一人の気づきをクラスで共有し、自分のアサガオへの興味をさらに持ったり、広げたりできるようにする。○自分の採った種を大切にしておくものということを子どもと確認し、丁寧に入れ物に関わることができるようにする。○種が取れた喜びや驚きに共感したり、それぞれの種に対する思いや関わりに寄り添うようにする。

9. 実際の子どもの姿(10月28日)



アサガオの種を入れるケースに好きな絵を描いたシールを貼る。種取りに期待をしながら、それぞれが描いて自分でフィルムケースに貼る。



担任に自分のツルをおろしてもらい、そのツルをたどっていきながら種取りをする。



友達のツルを見て、「〇〇ちゃんまだあるよ」と声をかける。



通りすがりの他のクラスの先生に何をしているか尋ねられ、自分のとった種を見せながら「アサガオの種!こんだけ取れたよ」と、嬉しそうにしおらせる。

「いっぱいとれた!」「こんなにとれたよ」と、嬉しそうに保育者に見せにきては、種取りに戻る。

- 保育室に戻ると、椅子の上にとった種を並べて数える子どもやケースを振りながら「音が出る」と、嬉しそうにしている子ども、友達とケースの中身を見せ合ったりする子どもがいた。
- 「この種どうしたい?」という保育者の問いかけに対し、「また植えたい」「お家に持って帰る」「すぐに植えよう」など、感じていることを自分なりの言葉で表現する。
- 最初、1粒だった種がたくさんになったことを子どもたちと確認し、たいようぐみになったら(来年)植えようという話をした。

10.成果と課題

成果

- ・植物（モノ）を通して、自分自身のアサガオと友達（他者）のアサガオが違うということを認識し、“違う”という事への気づきを促すことにつながった。特に発達的に支援の必要な子どもにとって、モノを介した関わりにより、友達のものとは違って見える様子が見られた。
- ・クラスの全員が自分自身のアサガオとして育てることで、自分のアサガオに関心を寄せて関わることで、クラスの活動に関わることに直結し、クラスのことに対して、自然と自分事につながっていった。
- ・ツルをリースにして飾る活動を今年度はさらにしたことで、育てたものの最後がどうなるのかを子どもと感ずることができた。

課題

- ・ツルからリースにする作業を、保育者側で行なったが、子どもたちと一緒にできる方法もしくは、保護者を巻き込んでの方法が考えられたように感じる。

目指す子ども像

創造する

人とともに

地球とともに

思いをもってトキメキとヒラメキを繰り返す子ども

ありのままを分かり合い、活かし合い、分かち合う子ども

身の回りのものごとにトキメキ、自分事として捉え、自らかかわる子ども

ドングリ拾い(11月22日)・鹿苑への園外保育(11月25日)

ESDで重視する能力・態度が揺さぶられる子どもの姿(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)

○批判的に考える力

・冬になると鹿苑の鹿の餌が足りなくなることを保育者から聞き、自分たちにできることは何かについてや奈良の鹿がなぜ保護されているのかなどについて、考えを巡らせ、自分の思いを伝えようとする。

(思考力の芽生え、言葉による伝え合い)

○多面的・総合的に考える力

・鹿苑の方から、人間が出したゴミを鹿が食べて死んでしまうことがあることを聞き、食糧不足以外の側面の問題に触れる。

(道徳性・規範意識の芽生え、思考力の芽生え)

○コミュニケーションを行う力

・身近な奈良の鹿について知っていることをそれぞれの経験をもとに話したり、友達の話を聞き、思いや考えに触れたりする。

(言葉による伝え合い、協同性)

○他者と協力する態度

・クラスの友達が拾ったドングリを全て合わせて鹿苑に届ける。(協同性、社会生活との関わり)

○つながりを尊重する態度

・奈良の鹿に興味をもち、親しみ愛着をもつ。(自立心、自然との関わり・生命尊重)

・自分たちが拾ったドングリが鹿苑の鹿のために使われることを知る。(自然との関わり・生命尊重、社会生活との関わり)

(自然との関わり・生命尊重、社会生活との関わり)

○進んで参加する態度

・奈良の鹿や鹿苑の鹿について、自分の思いをいろいろな場面でもち、自分なりに表現する。

(自立心、豊かな感性と表現)



友達が鉄棒と縄跳びで作ったアスレチックに興味を持ち、たくさんの子どもが集まり、繰り返し挑戦することを楽しむ。

ねらい(10月下旬~11月中旬)

- 友達の思いや目的に触れて遊ぶことを楽しむ
- 遊びや生活を通していろいろな友達とかかわりを楽しむ
- クラスの友達と一緒に過ごす中で、自分なりの思いをもつ

友達と自分の思いや考えの違いを感じる力

クラスでの共通の話題や目的を自分事として捉えようとする姿勢

クラスのいろいろな友達にかかわっていきこうとする力

クラスの友達の思いや考えを聞き行動する力



好きな遊びの後に「今日遊んで楽しかったこと」を伝える時間。「〇〇して楽しかった」「△と一緒に遊ぶのが楽しかった」自分なりの言葉で友達の前で伝えるようになってきた。



クラスみんなで、曲に合わせてパラバルーンのいろいろな技をすることを楽しむ。

運動遊び参観(10月中旬)

クラス集団の枠組みを捉える力

クラスのいろいろな友達の存在に気づき、クラス集団を認識する力



好きな遊びの中で取り組んでいた、平均台や鉄棒などの固定遊具に何度も挑戦する。

簡単な目的や目標に向かう力

できた喜びを自信や充実感に繋げる力

友達と一緒に遊んだり、過ごしたりすることが自分の喜びになる

少し先のことに見通しをもち、期待を寄せられる力

思いを継続・持続させられる力